

# 絵本で心一つ

あなたの心を絵本に添え、カンボジアに贈りませんか。小学校で自作の絵本を使った授業をしている、絵本作家の松原あけ美さん(画)と京都市Iが、同じ絵本二冊を一組にし、一冊をカンボジアの子に贈る「こころの絵本プロジェクト」を始めた。物を与える支援でなく、同じ物を介して心をつかち合う交流が狙いだ。十八日に千代田区で、絵本を披露する。  
(中沢佳子)

## ■作家の松原さんがプロジェクト■

松原さんは京都教育大付属京都小で不定期に絵本の授業をしている。児童が絵本を読んだり相談したりする「絵本セラピールーム」も同校に開設した。各地で読み聞かせや朗読コンサートも行う。

プロジェクトは長年の念願だったが、一年にトヨタ財団の助成を受けて実現した。カンボジアを選んだのは、ポル・ポト政権下で教師ら知識層が虐殺され、今も教育が行き届かないことを知ったから。貧しい子どもたちの教育の助けになり、心も通わせること

ができればと、新作の「二匹の蛇がいがみ合

いながらも成長し、相手や私生活で悩み、う

手を理解する物語。日

本語、クメール語、英

語で記し、十六日に完

成予定。二冊三千元

め直し続けるうちに立

## 18日千代田区披露 2冊1組 1冊を現地に

ち直った。  
その体験を生かし、地域で心理相談やスクールサポーターを始めた。思いついた物語を子供たちに話すと、少しずつ本音を漏らすようになった。「子供は物語を介すると、胸の内を話しやすい」と分かり、絵本を作って朗読を始めることに。

「自分の気持ちを感

じる子は、他人の気持ちも感じる」ことができ

る。日本でも海外でも、自分の心を見つめる機会を教育に取り入れることが必要では」と松原さん。活動を東京や全国、海外に広めていきたいという。

絵本は十八日に千代田区の東京国際フォーラムで開かれるシンポジウム「私の文化遺産再発見」(文化庁など主催)会場で披露する。詳しくは、松原さんへ  
075(595)8508へ。



カンボジアの子供たちに絵本を贈るプロジェクトを始めた松原あけ美さん(千代田区で